

第1章

fukuda.tex のかうせい

校正科学科

nkym

はじめに

早速校正です。反論は歓迎します。2019-10-22

1.1 校正

- 真空の誘電率って ϵ_o じゃなくて ϵ_0 では？
- ナブラは `\bigtriangledown` じゃなくて `\nabla` で出せます： $\nabla\phi \rightarrow \nabla\phi$.
- 式番号を参照するとき、かっこ () をつけた方がいいです。

例：

$$F = ma \tag{1.1}$$

(1.1) 式より、、、

または、`vuccaken2019.sty` で nkym が定義している `\siki` コマンド；

```
\newcommand\siki[1]{(\ref{eq:#1})}
```

を使うと楽です。

例：(1.1) より、、、

- 52 行目あたりに

```
$\mathbf{E}$:電場、$\mathbf{B}$:磁場、$\mathbf{j}$:流束、$\mathbf{n}$:法線ベクトル、$C$:任意の閉曲線、$S$:任意の閉曲面、$V$:任意の閉曲面$S$に囲まれた体積、$\rho$:電荷密度、$c$:光速$
```

とありますが、面倒臭がらずにちゃんと

\mathbf{E} : 電場、 \mathbf{B} : 磁場、 \mathbf{j} : 流束、 \mathbf{n} : 法線ベクトル、 C : 任意の閉曲線、 S : 任意の閉曲面、 V : 任意の閉曲面 S に囲まれた体積、 ρ : 電荷密度、 c : 光速

と書きましょう。

- `\footnote` は句点（ピリオド）の前に付けるのが普通っぽいです*¹。
- あとは文章中の数式に `$ $` を付けるのを忘れないようにするのと、半角全角を間違えないように.....

1.2 好み

- 被積分関数と微小量の間にスペースを入れた方が美しいです。

$$\int f(x)dx \rightarrow \int f(x) \, dx \quad (1.2)$$

- もっと言えば、微小量を表す d は変数ではなく \sin とか \log とかの記号と同じようなものなので、イタリック体ではなくローマン体にするのが正しいとされます。

$$dx \rightarrow \mathrm{d}x \quad (1.3)$$

でもさすがにこれは面倒なので無視するか、`physics` パッケージを使うのがよいです。以下 `physics` パッケージの例（ソースも見てね）：

$$\int f(x) \, \mathrm{d}x, \quad \frac{\mathrm{d}y}{\mathrm{d}x}, \quad \frac{\partial^2 f}{\partial x \partial y}, \quad \text{など} \quad (1.4)$$

- `fukuda.tex` の (1.20) 式のように `display style` でカンマを使う時は `\quad` でスペースを入れると絶妙です（個人的には）：

$$F_x = -\frac{\partial U}{\partial x}, \quad F_y = -\frac{\partial U}{\partial y}, \quad F_z = -\frac{\partial U}{\partial z} \quad (1.5)$$

- (2.20) 式は、かっこを大きくした方が美しいかと（個人的には）：

$$\mathbf{F} = \left(-\frac{\partial}{\partial x} U, -\frac{\partial}{\partial y} U, -\frac{\partial}{\partial z} U \right) \quad (1.6)$$

*¹ こんな感じで